

登録コード	E8267400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	藤崎 聖也	
英文授業名	Graduation Thesis					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	【達成目標①】公教育その他の社会への貢献を見据えて、研究の概要を文章や口頭報告などの形で他者に伝えることができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	【達成目標②】学士課程の集大成として、卒業後に初・中等教育の教師などになってからも欠かせない高度な探究を、特に経済分野において進める能力（情報収集、文章表現、報告方法）を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	1 経済（学）に関連するテーマで、一定の質量を有する学士課程の最終論文を完成させる。 2 文献の読解、分析、考察、文章の吟味などといった手順を確実に踏んでいく。 3 研究室および社会科教育コースの（中間・）最終報告会。							
(5)授業計画	＊下記の計画は、受講生の人数・個別事情によっても変わり得る。但し、指定の締切日（2027年2月1日予定）までに提出することは変えようがない。 第 1回：4 月初期時点での状況を報告 第 2回：今後の戦略を検討（調査すべき内容、文献など） 第 3回：文献報告（和文著書） 第 4回：文献報告（日本語の単発論文） 第 5回：文献報告（英文著書） 第 6回：文献報告（英語の単発論文） 第 7回：自主的な調査活動（応相談） 第 8回：研究計画再検討 第 9回：テーマの最終決定 第10回：論文の作法に関する再確認 第11回：データ分析手法の復習 第12回：テーマに関連する理論的背景の復習 第13回：テーマに関する時事的な動向 第14回：論文の展開を構想 第15回：テーマの整理・分析 第16回：第16回を受けた考察 第17回：テーマの追加分析 第18回：中間報告会（社会科教育コース単位で、2022年11月末予定） 第19回：文章点検（事実整理の章） 第20回：文章点検（分析・考察の章） 第21回：文章点検（イントロダクションとまとめの章） 第22回：文章点検で浮かび上がった追加課題の確認 第23回：追加課題の分析結果報告 第24回：原稿チェック結果報告 第25回：最終推敲し、公式締切（2027年2月1日締切予定）までに確実に提出（「指定締切日に出すつもり」では間に合わない。1～5日前までに出せるよう、余裕を持って。） 第26回：卒業研究抄録の作成（2027年2月3日締切予定） 第27回：最終報告会（個別または研究室単位、一人30～40分の報告・質疑応答。第28回の練習も兼ねる） 第28回：最終報告会（社会科教育コース単位、一人20～25分の報告・質疑応答。2027年2月上旬予定）（2027年 1 月中旬に授業アンケートを実施）							
(6)成績評価の方法	社会科教育コースの基準により、以下の要件で評価。 【1】卒業論文（60点）：達成目標①、②の到達度を測る 【2】取り組みの過程（20点）：達成目標①、②の到達度を測り向上させる 【3】最終報告会（20点）：達成目標①、②の到達度を測る ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							

(7)成績評価の基準	【1】卒業論文 1. ～6. は、社会科学教育コースの評価基準である。 1. 先行研究を踏まえているか（検索、収集、理解など） 2. 研究方法は適切か（データ収集・分析、フィールド、文献（論文、史料、資料）の扱い方など） 3. 独自性があるか（テーマ、問題設定、視点、発見、考察など） 4. 論旨は明確か（論理性、表現など） 5. 形式は整っているか（構成、分量、誤字・脱字、注、文献リストなど） 6. 研究倫理は守られているか（合法性、引用ルール、コピー禁止など） 経済学研究室では、下記の点を特記事項とし、1. ～5. については、 1・2つ優れていれば「水準にある」、3つ優れていれば「やや上にある」、4つ優れていれば「かなり上にある」、5つ優れていれば「卓越している」とする。但し、6. において重大な問題が生じた場合、1. ～5. に関わらず「水準にない」ものとみなす。 ＜特記事項（経済学研究室）：その他、詳細は必要に応じ授業中に指示＞ 1. 先行研究を踏まえているか（検索、収集、理解など） 2. 研究方法は適切か（データ収集・分析、フィールド、文献（論文、史料、資料）の扱い方など） →データや経済理論の扱い方。 3. 独自性があるか（テーマ、問題設定、視点、発見、考察など） →経済学を中心とする学問上の意義、社会的な意義、視点の独自性。 4. 論旨は明確か（論理性、表現など） →読みやすい構成とし、図表を適宜用いる。 5. 形式は整っているか（構成、分量、誤字・脱字、注、文献リストなど） →A 4 で表紙や要旨を除いて20ページ以上（20ページ目が半分以上埋まっていることを指す。尚、フォントは一般的なものから大きく乖離しないこと）。図表はいくら使っても構わないが、最大5ページ分としてカウント。この条件をクリアしないと、評価対象外となる。同じ文末の連呼（よくある例：「～と思う」「～こと」）、誤字や脱字などを少なくする。句読点を適切に用いる。 6. 研究倫理は守られているか（合法性、引用ルール、コピー禁止など） 【2】取り組みの過程（経済学研究室） (i) 進捗状況の定期的報告、(ii) 指定時間外でも必要に応じ質問・相談するなどの自主性、(iii) 他人の報告への関心（質問・意見）、(iv) 卒業研究を通じた成長。これらについて 1つ優れていれば「水準にある」、2つ優れていれば「やや上にある」、3つ優れていれば「かなり上にある」、4つ優れていれば「卓越している」 【3】最終報告会（経済学研究室）：理由にもよるが、欠席した場合には評価対象外とする。 (i) 資料の適切さ、(ii) 報告時の態度（含時間厳守）、(iii) 質疑応答、(iv) 他人の報告への関心（コース単位の場合、他研究室の報告も含める）。これらについて 1つ優れていれば「水準にある」、2つ優れていれば「やや上にある」、3つ優れていれば「かなり上にある」、4つ優れていれば「卓越している」 ＊上記の細かい部分は1つの目安であり、総合的な内容を鑑みて評価することに御留意頂きたい。
(8)事前事後学習の内容	この授業は225時間（含時間外）の学修を必要とする。 【事前】随時文献などの内容を整理する。また、論文形式で書き進め、点検を受けられるようにする。 【事後】報告・討論・点検を受けて浮かび上がった課題について再検討し、論文を修正する。 【事前・事後共通】必要があれば随時質問する（メール、研究室訪問など）。
(9)履修上の注意	1. 大学生活で恐らくは最長の文章を仕上げることになる。このような機会は滅多にないので、前向きに取り組めるテーマを選ぼう。 2. 学期中は週1日、夏季休業中は2～3週間に1回を目安に、顔を合わせた（遠隔でもよい）指導ができればよいかと考えている。いずれにしても、極端に連絡が滞ることのないように。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	○オフィスアワー：M 2 0 9 研究室。平日は随時。面会を確実にしたい場合、下記に事前連絡を。 ○連絡先：内線＝4 0 9 6、メール＝fujisaki[at]shinshu-u.ac.jp（[at]は@に）
【教科書】	指定しない
【参考文献】	指定しない